

皆で取り組む認知症ケア研修

～認知症を理解し、認知症の患者に対するケアの技術と方法を学ぼう～

2025年には、認知症のある人は約700万人にのぼると推計され、65歳以上人口の20%を占めると言われています。病院や施設にも認知症のある人が多く入院・入所されており、慢性期医療の現場スタッフは認知症ケアに関わらずして業務をこなしていくことはできないといえるでしょう。

そこで、今回の研修では認知症疾患の基本、アセスメント、症状への対応などについてグループディスカッションを含めて学んでいきます。これまで認知症のある人にあまり携わってこられなかったスタッフや、今の認知症ケアを見直したいスタッフの方など多くの皆様のご参加をお待ちしております。

【日 程】 2021年9月10日(金) 10:20～17:30頃

【プログラム】

時 間	内 容
10:25～10:30	開講挨拶 田中志子(日本慢性期医療協会常任理事)
10:30～12:00	<p>主な認知症の見極め方 –アルツハイマー、レビー、ピックを鑑別する– * 講師:熊谷頼佳(京浜病院 院長)</p> <p>看護師やケアスタッフも医師とともに、認知症の症状を引き起こす原因疾患に向き合うことが認知症ケアの認知症ケアの基本となる。認知症の予防や治療により進行を遅らせることも含め、認知症疾患そのものを知ろう。</p>
12:00～12:30	昼食休憩
12:30～15:00 うち講義60分 演習80分 休憩10分	<p>入院中の認知症の患者に対する看護・ケアに必要なアセスメント(演習含む) * 講師:小泉則子(永生病院 認知症看護認定看護師)</p> <p>認知症の人に適切な看護・ケアを提供するためには、そのファーストステップとして、アセスメントをもとにケアプランを立てることが必要であろう。そのために知っておかなければならないこと、見落としてはならないことは何かを考えよう。 (演習:認知症のある患者の実際の様子をビデオを用いて数症例提示し、症例のアセスメントを提示し、その患者に対するアセスメントの情報として求められているものは何かを考える。)</p>
15:00～15:10	休憩
15:10～17:30 うち講義60分 演習70分 休憩10分	<p>行動・心理症状(BPSD)、せん妄の予防と対応法 ～身体拘束ゼロへの考え方・技術とケアマニュアル(演習含む) * 講師:小池京子(内田病院 認知症看護認定看護師)</p> <p>認知症の人をケアする上で一番の問題とも言えるのは、BPSD、せん妄等であろう。しかし、それは認知症の人にとっての問題ではなく、周囲にとって大きな問題であるのかもしれない。ケアのレベルアップによって、これらの問題はどうか変わっていくのかを考えよう。 (演習:参加者各自がBPSD、せん妄の対応の困難事例についてディスカッションを通して考える(ブレイクアウトルーム機能使用))</p>
17:30	閉講挨拶 田中志子(日本慢性期医療協会常任理事)